

スタートアップ深層 ～ 世界が注目する理由に迫る ～



オール・イン・ワンの
コンテナ型キッチンロボット



赤ん坊の「口の動き」
を取り入れた搾乳ポンプ

毎年多くのスタートアップ企業が誕生するイスラエル。革新的な技術やプロダクトを生み出し、世界から注目を集めているスタートアップの中から、今回、Hyper Food Robotics と Annabella Tech の2社に創業過程や事業戦略、今後の展望、さらには日本市場への思いや本音を聞いた。

1.

Hyper Food Robotics

Mr. Udi Shamai

CEO

コンテナ一つがキッチンロボット

近年、調理や梱包などの工程の一部をロボットに代替させる飲食店が増えている。一方、それら全てを行うロボットは、いまだ存在しない。



こうした中、Hyper Food Robotics社は、コンテナ一つで食材の管理、料理、梱包を行うキッチンロボットを提供している。同社のCEOであるUdi Shamai氏に取材を行った。

ピザハットCEOの経験を生かし、起業に至る

Shamai氏は、30年以上ファストフード店でのマネジメント経験を持ち、ピザハット・イスラエルのオーナーでもある。管理者として、デリバリーシステムをはじめとする、飲食店のあらゆる仕組みの発展に貢献してきたため「飲食店のオペレーションは全て理解している」と語る。そんな彼が唯一成し遂げられなかったと語るもの、それが「飲食店の全オペレーションの自動化」であり、現在同社が行っている事業だ。

コンテナ一つで食材の管理、料理、梱包の自動化が可能に

同社は現在、全自動でピザを焼くコンテナを製造している。「オペレーションの一部をロボットが行い、その他の部分を人間が対応する」といった他のキッチンロボットとは異なり、同社が提供するロボットは、全てのオペレーションを行う。これにより、人件費がかからないだけでなく、24時間休みなく稼働することも可能になる。

同社の提供するロボットは、水と電気さえ供給できれば稼働可能であり、コンテナ一台ほどの敷地に設置可能であるため、高い家賃を必要とせず、多くの場所に設置可能だ。一コンテナあたりの導入コストは約3,500万円。



同社が提供するコンテナ (<https://hyper-robotics.com/>)

ピザ以外のキッチンロボットの開発、世界への展開を目指す

同社は、ピザ以外に、ハンバーガーやアイスクリームなどを提供するキッチンロボットの開発をめざす。また、イスラエル国外市場への展開、特にアメリカへの展開を目指しており、その後は日本への展開も視野に入れていると Shamai 氏は語る。



Udi Shamai 氏

CEO から日本企業に向けたメッセージ

日本はロボティクス等の科学技術がとても先進的で、日本企業との協業がしたいと考えています。

また、アメリカへの進出をした後は、日本市場への進出も目指しております。

<https://hyper-robotics.com>

2.

Annabella Tech

Mr. Uri Yaffe

CEO

母親に優しい搾乳ポンプ

搾乳ポンプは世界中で利用されているものの、

「十分な量の搾乳ができない」「痛い」など不満の声も多い。

こうした問題が残る中、Annabella Tech社は、母親への痛みが
少ない形で母乳を搾ることができるデバイスを開発している。

今回、同社のCEOであるUri Yaffe氏に取材を行った。



搾乳の辛さや非効率さの解消を目指し、設立された

同社の起源は、創業者であるMasha Waldberg氏の出産と育児経験に遡る。

Masha氏は、搾乳ポンプを使用した際「母乳がうまく搾り出せない」「吸引力が強すぎて痛い」という悩みを抱えていた。ほとんどの搾乳ポンプは、掃除機のように「吸引する」機能のみを有しており、実際に赤ん坊が乳を吸う仕組みとは異なる仕組みで作られている。実際の赤ん坊は、単に乳を吸引するだけでなく、舌や口で乳首と乳輪を圧迫しているのだ。この「口の動き」こそが、母親の自然な授乳分泌を引き起こし、より効率的に痛くない方法で搾乳することを可能にする。

しかし、赤ん坊の「口の動き」まで取り入れている搾乳ポンプは販売されていないことを知り、そのような製品を開発するため、同社は設立された。

赤ん坊の「口の動き」を再現することで、効率的で快適な搾乳を可能に

右下の画像は、同社が提供する搾乳ポンプの画像だ。

同社の製品は、他の搾乳ポンプと同様に、内部の圧力を下げて「吸引する」機能を有しているだけでなく、赤ん坊の口の動きを再現した機能も有している。

この機能により、他の搾乳ポンプと比べて二倍以上の母乳を搾り出すことができるだけでなく、ポンプの使用が苦痛ではなく、快適に近いというアンケート結果も得られた。



また、データに基づき、最適な搾乳をサポートするための推奨事項をユーザーに通知する。例えば、内部の圧力を上げすぎた際には下げるように、またその逆の場合も通知がAIベースで行われ、これが同社の製品のさらなる強みだといえる。

まずはイギリスやアメリカ、その後は日本への展開も目指す

同社は、まずイギリスとアメリカでのオンライン販売を予定しており、適切なパートナー企業が見つかり次第、日本市場への展開も目指している。また、オンライン販売だけでなく、病院や小売店にもアプローチしていきたいと Uri 氏は語った。

同社はすでに 530 万ドルの資金調達をしているものの、生産と製品販売のためにさらなる資金調達も目指している。



Uri Yaffe 氏

CEO から日本企業に向けたメッセージ

当社は、日本市場への進出も目指しています。

そのため、パートナー企業として販売の支援をしてくれる企業だけでなく、規制のサポートをしてくれる企業や当社への投資も募集しています。

<https://annabella-pump.com>